

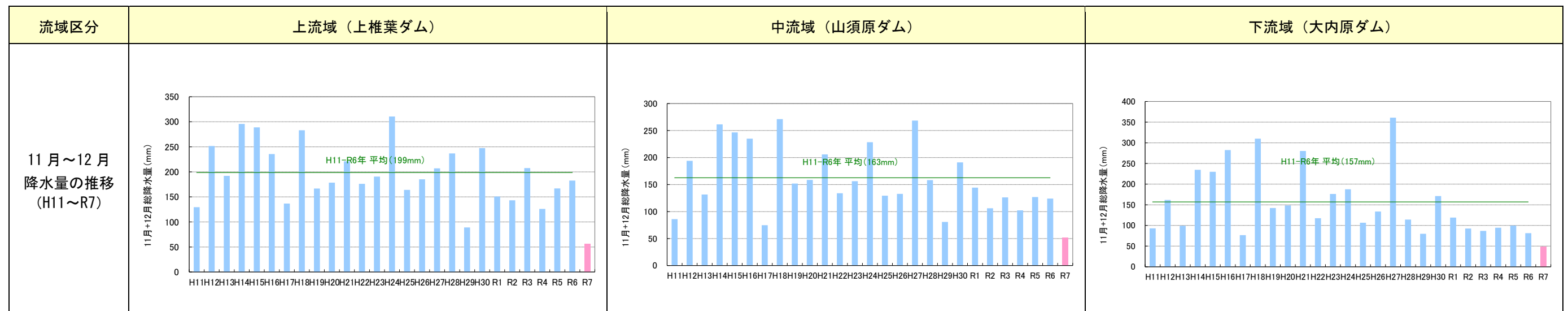
耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会
第14回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ

令和7年の耳川流域の概況

令和8年3月16日

～令和7年耳川流域の特徴～

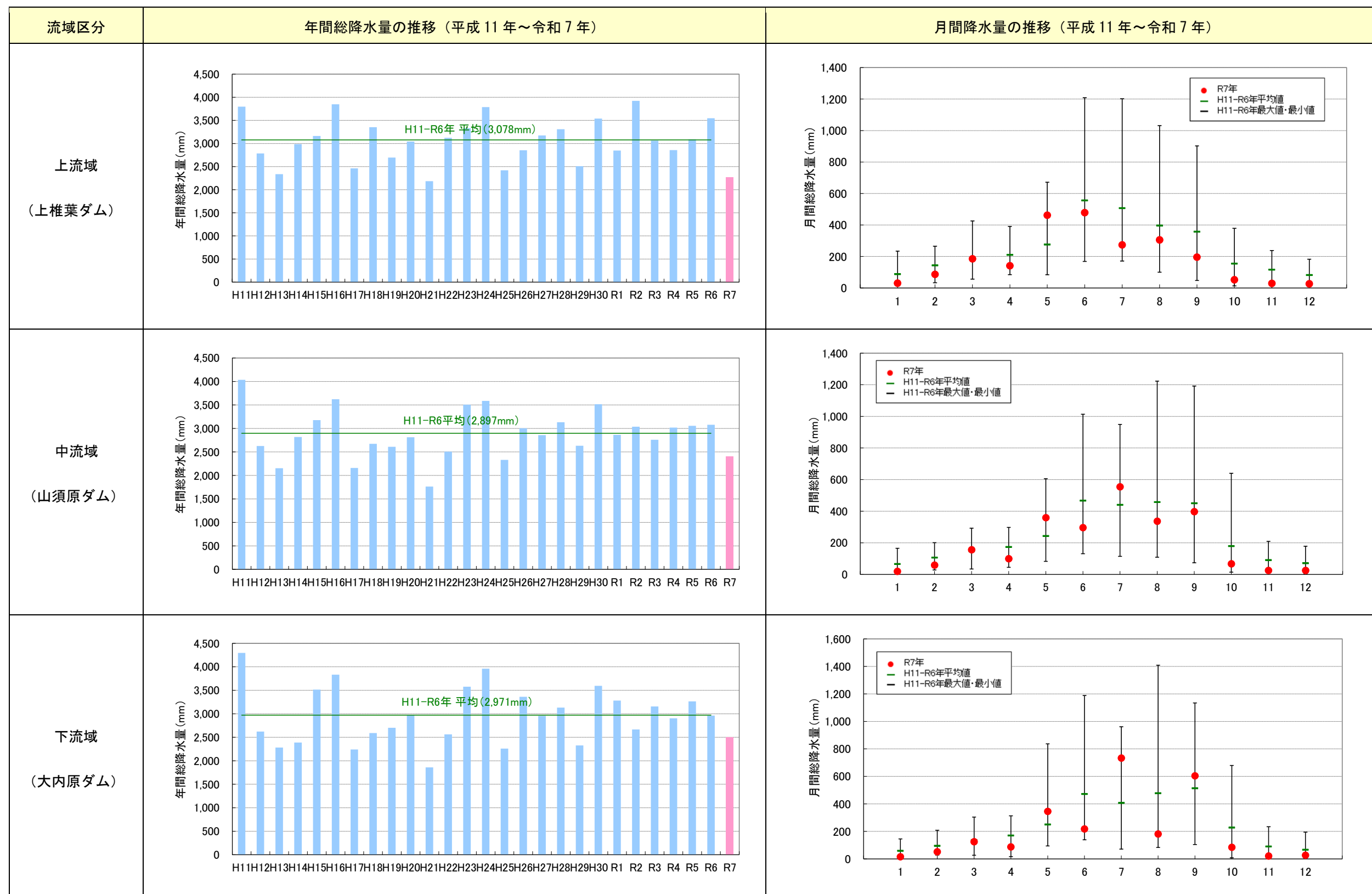
- 令和7年の年間降水量は、各流域（上流域、中流域、下流域）において平均（平成11年～令和6年）より少なかった。
- 令和7年の月間降水量は、各流域において平成11年～令和6年の変動内であった。しかし、11～12月の降水量で見ると、各流域において、平成11年以降の27年間で、最も降水量が少なかった。
- 令和7年の主な出水は、前線性出水（7月11日～14日）、台風15号（9月4日～6日）であった。
- 令和7年で最も大きかった出水は台風15号であり、山須原ダムでは、最大流入量が413m³/sであり、平成11年以降の27年間で2番目に小さい規模の流入量であった。また、大内原ダムでは、最大流入量が1,092m³/sであり、平成11年以降の27年間で10番目に小さい規模の流入量であった。



1. 降水量の概況

各流域（上流域、中流域、下流域）の年間降水量と月間降水量を整理した。

- ・令和7年の年間降水量は、各流域において平均（平成11年～令和6年）より少なかった。
- ・令和7年の月間降水量は、各流域において平成11年～令和6年の変動内であった。

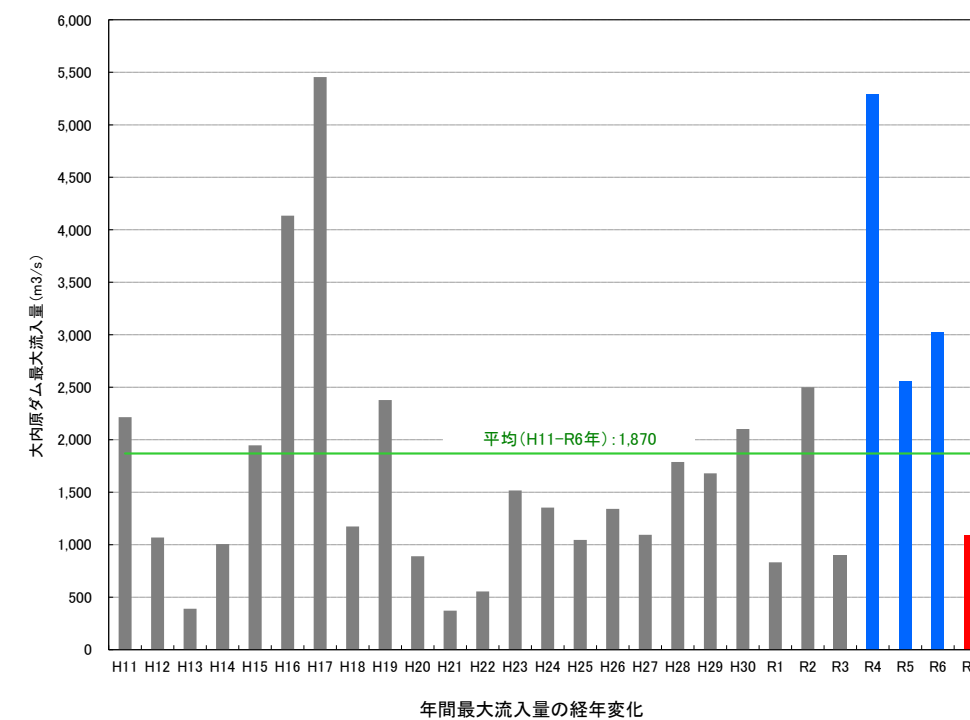
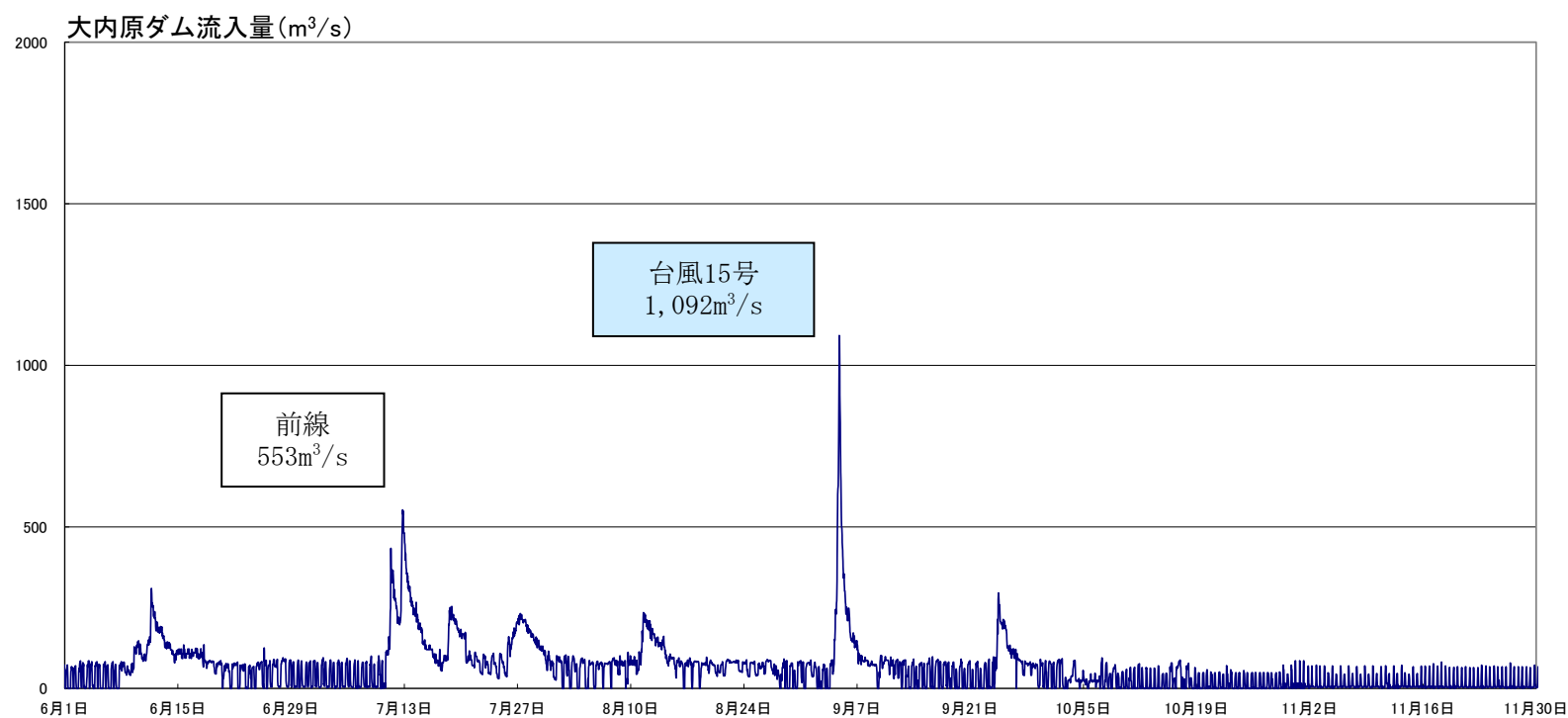
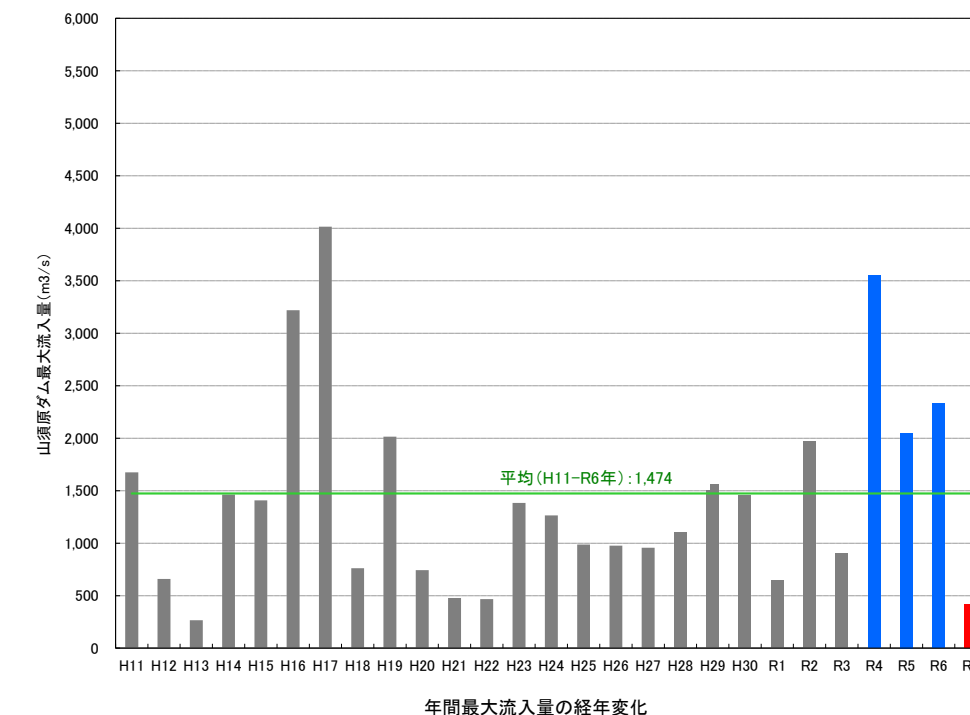
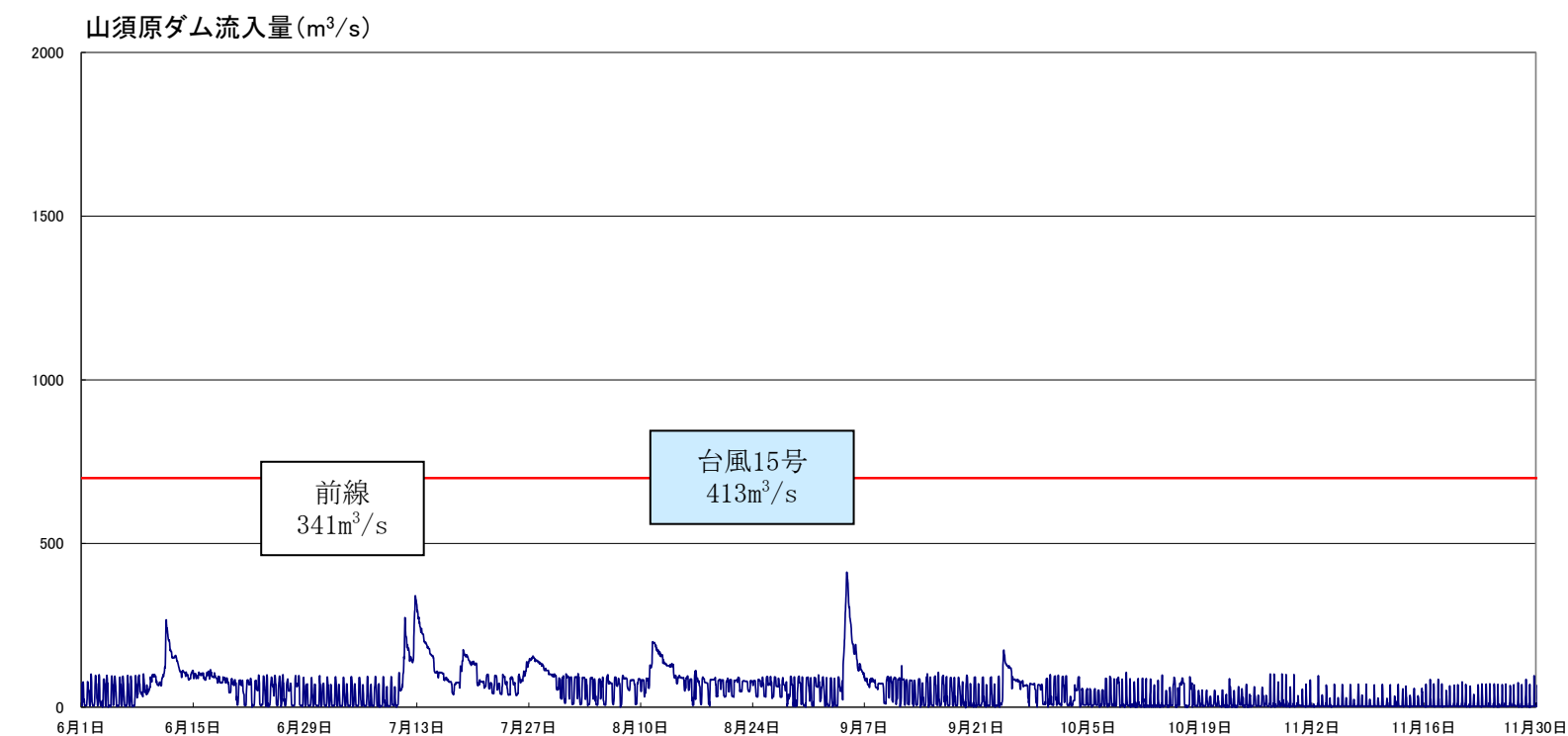


2. 出水の概況

令和7年の主な出水は、前線性出水（7月11日～14日）、台風15号（9月4日～6日）であった。

令和7年で最も大きかった出水は台風15号であり、山須原ダムでは、最大流入量が413m³/sであり、平成11年以降の27年間で2番目に小さい規模の流入量であった。

また、大内原ダムでは、最大流入量が1,092m³/sであり、平成11年以降の27年間で10番目に小さい規模の流入量であった。



※毎正時データの年最大を示す

※毎正時データの年最大を示す